

私が伝えていきたいこと

No.516

私は「NPO法人こんぶくろ池自然の森」の会員になって6年がたちます。つくばエクスプレスの開通後、マンション群の建設など、柏市の新市街地として大きな変貌を遂げているエリアに、「こんぶくろ池自然博物館」(予定地18・5万㎡)があり、その保全と管理がNPOの主な役割です。

植物のクロツバラなどの植物をたくさんみることが出来るほか、たぬきや野ウサギなど多様な生き物が生息しています。一方、同公園の一部は、かつて馬を放牧した牧場が、その後、飛行場の跡地に約40年間ゴルフ場だった時代があります。そのエリアにある2つの造成池(ふじ池、トンボ池)のエリアには、松のほかにアカメガシワやハンノキなど落葉樹林も広がり、しかも暖温帯に位置する公園内には、珍しくも冷温帯に生育する植物のズミなどもわずかながらみることが出来ます。古くは氷河期のころまで北総台地に冷温帯の植物群が生育していたと考えられますが、いまなおこの地で生き延びていることは、貴重です。

宝物がたくさん詰まった「こんぶくろ池自然博物館」は、都市化が急速に進む中で多様な生態系を維持する希少な森です。今まで関わってきた人たちの思いを、後世に残す価値があります。



岡本 昇

また、近代以降この辺りは、人が関わり、樹木は新たな公園の自然環境の保全に全力で取り組んでまいります。

同公園の特徴は、珍しいタイプの湧水池が2つ(こんぶくろ池、弁天池)あります。台地の表面で地下水が湧き出す珍しいタイプの湧水。そのため、水が豊かなこの公園では、特に湿地冷温帯

萱など屋根ふく材料等に利用されてきました。今は私たちNPOが、樹林を自然公園として整備管理するため柏市から委託を受け、森の保全等に向けて様々な活動を続けています。

一緒に、この自然豊かなこんぶくろ池自然博物館を守り、そして公園づくりに参加してみませんか。

(NPO法人こんぶくろ池自然の森理事)